

平成29年2月14日

浜田市議会議長 西田清久 様

議員名 澁谷 幹雄



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため、視察を実施したので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成29年2月6日(月) 午前7時から
平成29年2月8日(水) 午後5時まで

2. 視察内容
 - ① 佐賀城公園の整備と歴史館の状況(佐賀市)
 - ② 唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題(唐津市)
 - ③ 福岡城址の整備状況(福岡市)

2. 視察先 佐賀県庁・佐賀城公園・佐賀城本丸歴史館
唐津市舞鶴公園・唐津漁港市場・福岡市大濠公園

3. 調査経費 一人当たり 22,408円
(経費内訳 レンタカー代金・ガソリン代・高速料金・宿泊費)

4. 調査研究活動の概要

別紙



佐賀城公園の整備と歴史館の状況（佐賀市）

佐賀県佐賀土木事務所田崎茂樹所長

佐賀県佐賀土木事務所街路公園課野口欣也課長

佐賀県立佐賀城本丸歴史館企画学芸課藤井祐介学芸員

- 都市計画決定面積33.3ha 開園区域28.8ha
- 公園内に、県立図書館、県立博物館、県立美術館、市村記念体育館、佐賀城本丸歴史館、佐賀城鯨の門などがある
- 佐賀城1602年鍋島直茂・勝茂によって築城、平城、天守台4重
- 平成19年、20年かけて「佐賀城下再生百年構想」を策定
- 孫の世代まで(100年後)まで受け継がれるよう品格ある佐賀城下をめざす、自然区間と歴史、住宅地、公共施設との調和、歴史文化と文教機能を強化する
- 本丸北側をにぎわい拠点、街並み再生
- ハード整備—二の丸広場、レトロ館、東濠の復元、ソフト—祭りとイベント
- さがレトロ館—民間によるカフェレストラン、濠—ホテルとハスの再生への取組
- 鍋島直正公の銅像再建(8m)—募金によって、平成29年3月4日除幕式
- 東濠復元工事—赤石護岸の復元、舟揚げ場の復元
- 昭和58年歴史資料館建設意向表明
- 平成10年佐賀市長→「本丸遺構と一体となった歴史資料館の建設」の要望
- 平成16年8月 「佐賀県立佐賀城本丸歴史館」会館
- 佐賀藩35万石、外様大名で8番目の規模
- 本丸歴史館は、十代藩主鍋島直正が1838年に再建した本丸御殿を忠実に復元した日本最大級の木造建築物

唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題

佐賀県産業労働部流通通商課中西昭成係長

株式会社唐津魚市場常務取締役木下泉氏

—浜田市産業経済部漁港活性化室石田室長・戸津川係長・田中主事

浜田市都市建設部建築住宅課佐古係長・平野技師の5人との合同視察

- 国土交通省平成20年→衛生管理型市場の整備—水産物の国際競争力の強化と力強い産地づくりの推進のため、水産物の流通拠点となる漁港で取り扱われる水産物のうち高度な衛生管理対策の下で出荷される水産物の割合を23%から50%に向上させる目標を表明
- 「唐津港まき網市場」改修整備の状況—ネットを使用した開放型で、床の清潔を保つ、床面の傾斜化とコーティング、セリ城内への車両進入防止構造、鳥糞による汚染の防止、衛生確保のための濾過殺菌海水供給施設の設置、施設洗浄のための十分な海水供給量の確保、営業しながらの工事のため3区画分けて改修、総事業費18億1千6百万円、事業主体—県
- (株)唐津魚市場の年間使用量1500万円、管理委託料年間400万円、水揚げ手数料4.5%、箱代120円、水揚高34億5千万円、水揚量2万3千6百トン
- 設計は実績のある会社に、事業期間平成26年~28年、LED使用
- 高度衛生管理型に改修することにより、安全安心のブランド化を図り、水揚げ量シェアを確保することを目的に改修、以前の唐津漁港汚かった

- 自動選別機3台だが、実質2台稼働、一台につき30人の人員必要、人材確保困難
- 夏場の体感—5度下がる

所感

佐賀本丸歴史館は、320畳の大広間やたくさんの執務室も配置された佐賀城本丸御殿を復元した、日本最大級の木造建築物とのこと。入場料無料で市民に公開されており、たいへん整備された資料館だった。

平成10年佐賀市長が佐賀県に対して、歴史館建設の要望を行い、平成16年開館、さらに、「佐賀城下再生百年構想」に組み込まれて公園整備が進められており、極めて城址を中心とした公園整備が、体系的に推し進められている、と感じた。

佐賀県議会議事堂の一室で、説明を受け、回答をもらったのは、佐賀県佐賀土木事務所の職員さんだったが、一つ一つの質問に対し、相談して確認しながら回答を受けるといふ、今までの行政視察では初めてのパターンだった。現地での説明でも、次ページの写真にあるように、何枚ものパネルが準備されていて、佐賀県職員のレベルの高さを感じさせられた。佐賀市も、公園整備を県に任せているなど、行政の知恵を感じた。浜田市も、何もかも、自分で整備するのではなく、県の力をできるだけ借りる仕掛けなど検討できないものか、と感じざるを得なかった。

唐津港まき網市場の視察では、市議会の議員8人と浜田市の職員5人が説明を受けた。浜田市産業経済部石田漁港活性化室長から、浜田漁港の高度衛生管理型市場建設をにらんだ、専門的な質問がなされ、見識を深めるのに有意義な視察となったように思う。こちらも、事業主体は、佐賀県だった。何故浜田市は、何でも、自分でしたがるのだろう、と感じざるを得なかった。設計は、衛生管理型市場のノウハウのある東京の会社だったが、そういうコスト削減に実績と知恵のある設計会社に委託しなければ、現在の54億円の計画予算では、東京オリンピックを前にした資材の高騰などで、さらに経費の増大が危惧されるどころだという感想を持った。

余談だが、司馬遼太郎によると、幕末における開明派の名君の双璧は、薩摩の島津斉彬と佐賀の鍋島直正（閑そう）とのことで、斉彬が育てたのは、西郷隆盛と大久保利通で、直正が育てたのは、大隈重信と江藤新平ということになるのだろうけれど、本丸歴史館の藤井祐介学芸員から、二人の名君の正室は、鳥取藩の池田氏から嫁いできており、二人は親戚関係にあることを教わった。鳥取の池田氏の家紋は、平家の揚羽蝶で、私の家の家紋も何故か揚羽蝶なものだから、何とはなしに親近感を持っていたのだけれど、二人がそういう近い間柄だったことを知るといふ僥倖にも遭遇することのできた会派視察となったことを付け加えておきたい。



佐賀県の職員さんから佐賀城公園の整備状況の説明を受ける



佐賀城本丸歴史館の学芸員さんから全体模型を見ながら説明を受ける様子



唐津魚市場のコーティングされた床面を視察



唐津魚市場前での参加メンバーの集合写真



佐賀県議会議事堂1階での参加メンバーの集合写真